

弘前学院大学ティーチング・ポートフォリオ

看護学部・看護学科
佐藤 厚子

作成日 2023年12月6日

1. 教育の責務

看護学分野で主として老年看護学領域を中心として、講義や実習科目を担当している。学生には人間とは何か、看護とは何かを深く考える看護者になって欲しいと切望しており、理解しやすい授業を心がけている。

1. シラバスを作成し、学生に授業の概要、主旨、到達目標を明示している。
2. 2人以上で行う講義は授業担当表を作成し、学生に示している。

2023年度担当授業

科目名	学年	授業種別	開講学期	概要
老年看護学概論	2年	講義	前期	「老いる」とは何か、エイジズム
老年看護方法論	3年	講義	後期	加齢による生活への影響
老年看護援助論	3年	演習	前期	高齢者の健康と自立への援助
基礎演習	1年	講義	前期	小グループ演習
看護栄養学	2年	講義	前期	栄養と健康のつながり
家族看護学	2年	講義	後期	家族を理解するための理論と支援
研究方法論	3年	講義	前期	看護研究の基礎
卒業研究	4年	演習	通年	研究実施、研究論文作成、発表
老年看護学実習	3年	実習	通年	デイサービス実習、施設実習
健康づくり実習Ⅰ	1年	実習	前期	地域で生活する人々にインタビュー
健康づくり実習Ⅱ	3年	実習	後期	地域で生活する人々に健康教育
看護統合実習	4年	実習	前期	より実践的な実習、実習の統合

2. 教育の理念

1. 国家試験に合格し、看護職となるための基礎能力の涵養
2. 建学の精神である「畏神愛人」を基盤とした教養、品格を持った人材の育成
3. 生活リズムを重視し、ルールを守る人材の育成
4. 人間とは何か、看護とは何かを深く考える授業内容
5. 理解しやすく興味が持てる教材の提供
6. リフレクションし、自己の成長を感じられる授業

3. 教育の方法

1. 授業開始、終了時間を厳守している。
2. 講義中は私語をしない、携帯電話を手元に置かない約束をしている。
3. 授業のスケジュールなどオリエンテーションを行っている。
4. 授業資料を準備する際は、最新のデータになっているか、資料は分かりやすいかなど毎回チェックをしている。従って、前年と同じ資料はない。
5. 自分が行ってきた研究を織り込みながら、学生が興味が持てる授業内容を工夫している。
6. 講義資料は教科書の他、専門分野の論文、DVD、新聞記事など幅広く情報を集め、提供している。
7. できるだけパワーポイントは使わない。自分でポイントを理解できるペーパー（ノートづくり）を工夫している。
8. 講義のたびに、重要ポイントを整理したノート（国家試験レベルを含める）やリフレクションシートなどを提出してもらい、理解の程度を確かめている。
9. ディスカッションを大事にしている。特にグループワークはパワーポイントを作成し、発表してもらっている。
10. ルーブリック評価を作成し、学生がより客観的な視点で自己評価できるようにしている（基礎演習・実習）。

<実習の工夫>老年看護実習は2単位である。

初日：オリエンテーション、アセスメント場面の課題をプレゼンテーション、10分間テストなど。

実習2日目から4日目：臨地実習（ディサービス実習、老人ホーム実習）、毎日10分指導者を交えたカンファレンス。

実習6日目から10日目：①受け持ち利用者の看護過程展開⇒事例整理（コミュニケーションを含む生活援助の視点でアセスメント）⇒関連図作成⇒看護の焦点整理⇒要約⇒看護計画（特に重要な看護の焦点）⇒実施と評価⇒発表⇒ディスカッション②グループワーク（34）⇒テーマ「高齢者を支える地域の役割、看護の役割」をディスカッションし、パワーポイントにまとめる⇒発表⇒ディスカッション③レポート作成⇒テーマ「その人らしく生活する支援について考える」④反省会：テーマ「高齢者の理解、実習前と実習後で変化はあったか」「高齢者の看護観」

老年看護実習スケジュール

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
オリエンテーション	臨地実習 受け持ち決定	臨地実習 カンファレンス	臨地実習 カンファレンス	臨地実習 反省会
6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
看護過程展開	看護過程展開	発表	グループワーク	反省会

4. 教育の成果

授業評価官アンケートから

1. 講義について

<老年看護援助論>

- ・教員は熱意をもって授業に臨んでいるは3.6の高得点であった。

2. 実習について

<老年看護学実習>

- ・評定平均は3.8と高く、学生は真摯に実習した様子がわかる。
- ・教員は熱意をもって授業に臨んでいるは3.6の高得点であった。
- ・実習に満足している学生が多い。3.8の高得点である。
- ・新しい知識や技能、専門的な考え方、発想を学べたことを3.6と高く評価していた。

3. 卒業論文について

1) 2020年度

- ① ① H大学生における食品材料摂取頻度と抑うつとの関連性（第1報）
- ② Behavioral and psychological symptoms of dementia (BPSD)療養者への効果的なかかわりについての文献検討ー老年看護学実習での自分のかかわりを振り返るー
- ③ 幼児期・青年期の双子をもつ母親の育児不安内容ー2つの事例から見えてきた育児への思いー⇒投稿

高橋 琴乃, 木村 絢芽他: 幼児期・青年期の多胎児をもつ母親の育児不安内容 2つの事例から見えてきた育児への思い, 弘前学院大学看護紀要, 16巻, 13-21, 2021.

2) 2021年度

- ① H大学生における食品材料摂取頻度と抑うつとの関連性（第2報）
- ② 更年期症状がある中年女性へのストレッチ効果
- ③ 体幹移動シートを使った介護者の身体的負担軽減効果
- ④ フレイルの程度と栄養バランスの関連⇒投稿

佐藤厚子、中田日向他: フレイル重症度における食品材料摂取頻度の特徴 Model Nutrition Balance Chart(MNBC)を用いた分析, 弘前学院大学看護紀要, 17, 11-18, 2022.

3) 2022年度

- ① H大学生における食品材料摂取頻度と抑うつとの関連性（第3報）
- ② 在宅における高齢者を対象とした転倒予防ー転倒予防スリッパを使用した事例研究ー⇒投稿

三浦 凌, 佐藤 厚子: 「転倒予防トレーニングスリッパ」を使用した歩行訓練によるバランス機能改善効果ー在宅における高齢者を対象とした事例研究ー, 18, 17-24, 2023.

5. 教育の改善

1. 講義

＜老年看護援助論＞

話し方については3.1であり、改善の余地がある。学生からの要望を時折聞くようにしているが、話すスピードが速いと指摘があった。今後は時折学生の反応に注意し、授業内容が理解できたかどうか確認して講義を進めていく

2. 講座受講

弘前大学履修証明プログラム「医工学技術者養成講座」履修中

3. 第5回ものづくり体験ワークショップ参加（看護理工学会次世代委員会主催）

6. 教育の目標

2020年に本学採用となり、学務主任、学科長を歴任した。現在は主に宗教委員の任務に当たっているが、キリスト教の教えが学生に充分伝わっていないことを痛感している。「生活」が人を作り、倫理観を育てる。倫理観は看護者になくってはならないものであり、学生生活の中で本学がキリスト教教育を行っていることは意義深いものである。学生教育の根底には本学の建学の精神である「畏神愛人」があり、授業でも目に見えないものを大切にすることに接していくことは重要である。

長期目標：1. 知・徳・体に優れ倫理観が備わった人格をつくっていく

2. 新たな授業として看護理工学を構築する

短期目標：①キリストの教えを知り、臨地実習前のグループワークを通して、実習姿勢を見つめ直す②国家試験対策③日常生活教育③看護理工学を老年看護学概論、老年看護学方法論の授業に組み込む

【資料】

1. 授業改善書
2. 弘前大学履修証明プログラム「医工学技術者養成講座」履修証明書
3. 第5回ものづくり体験ワークショップ参加メール
4. 高橋 琴乃, 木村 絢芽他：幼児期・青年期の多胎児をもつ母親の育児不安内容 2つの事例から見えてきた育児への思い, 弘前学院大学看護紀要, 16巻, 13-21. 2021. 別刷
5. 佐藤厚子, 中田日向他：フレイル重症度における食品材料摂取頻度の特徴 Model Nutrition Balance Chart (MNBC) を用いた分析, 弘前学院大学看護紀要, 17, 11-18, 2022. 別刷
6. 三浦 凌, 佐藤 厚子：「転倒予防トレーニングスリッパ」を使用した歩行訓練によるバランス機能改善効果—在宅における高齢者を対象とした事例研究—, 18, 17-24, 2023. 別刷